

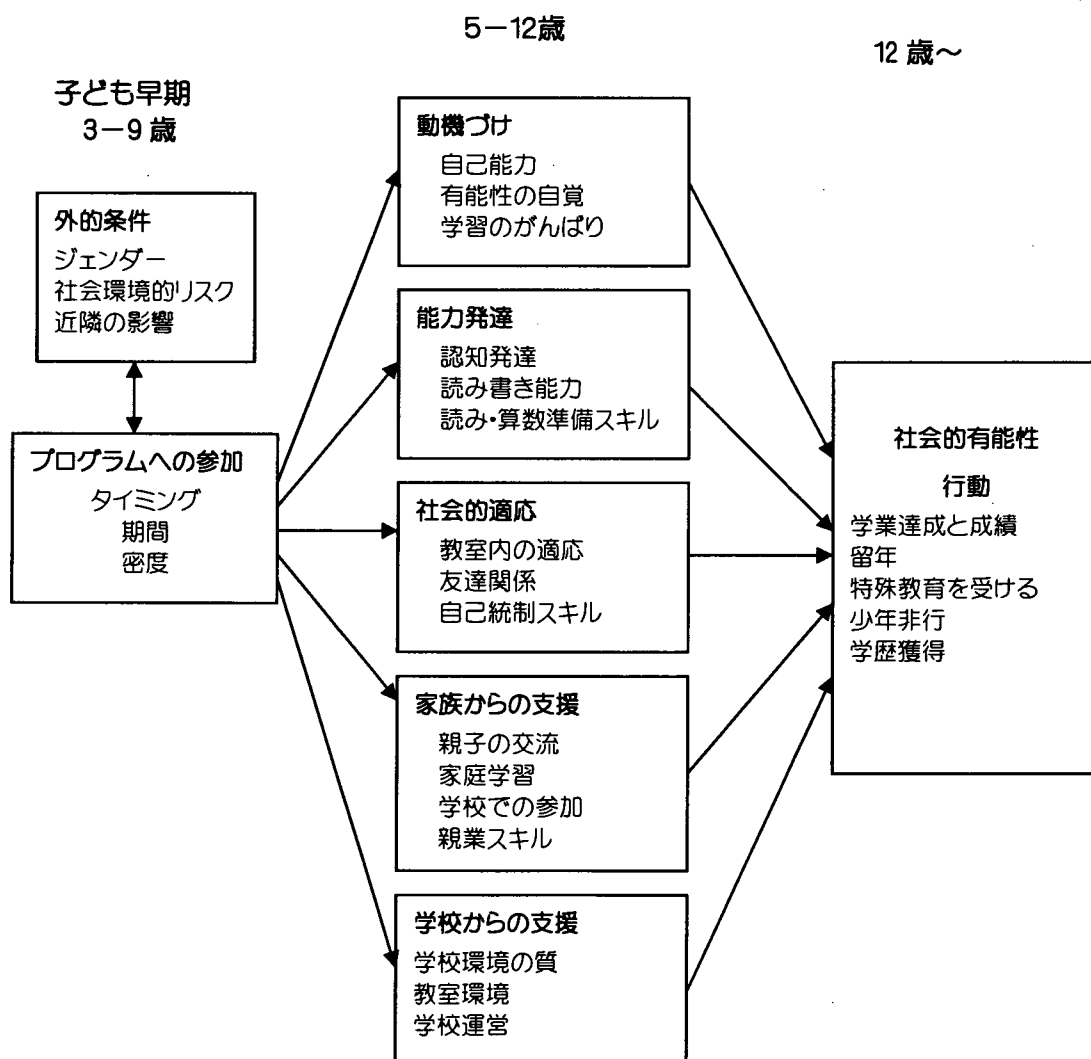
成人期への移行への適応を見ると、各段階の状況はそれ以前の段階を強く引きづっていることがわかり、結局は乳幼児期に立ち戻ってしまう。

5. オウとレイノルドによる生育環境理論モデル⁶⁶

ウィスコンシン・マディソン大学のシュールリュウ・オウとアーサー・レイノルドは、3、4歳以降の保育プログラムと学校教育の諸要因と、子ども自身とその置かれた環

境がまず相互に影響をすること、そしてそれらは5つの領域の観点からの学童期（注；アメリカは5歳児に入学するキンダーガーデンは学校と呼ばれるため、5-12歳のあいだをさす）を規定する要因に発展し、それらは総合的に思春期以降の学校生活に求められる社会的な有能性を形づくることを示した（図1）。彼らの示した社会的有能性のモデルは、生育環境の理論モデルとして参考になるであろう。

図1 社会的有能性形成のプロセス



別表1 研究に用いられたアセスメント一覧

アセスメント	測定される変数	開発者 *はスタッフ
妊娠後期(出産3ヶ月前～)		
シップリー・ハートフォード語彙テスト	知能	Shiply & Hartford
人格検査;		
攻撃性、防衛、衝動、援助	人格特性	Jackson
IPAT 不安質問用紙		
信念検査	不安	Cattell & Scheier
出産前認識検査	統制	Rotter
母親質問用紙	母親としての期待	Broussard & Hartner
妊娠調査用紙	母子関係形成について母親の態度	Cohler
育児知識質問	母親の妊娠についての意識	Schaefer & Manheimer
母親情報	母親の知識	*
	一般情報	*
出生時		
看護士による評価		
新生児データベース	新生児の気質と特徴	Ferreira & *
分娩環境	一般情報	病院スタッフ
出生前行動検査スケール	一般情報	*
誕生質問用紙	新生児の心理的・社会的特徴	Brazelton
	一般情報	*
3か月時(2か月～)		
状況調査		
赤ちゃんとの楽しみのスケール	母親への環境ストレスの量	Cochrane & Robertson, *
ケイリー乳児気質質問用紙	母親の対赤ちゃん感情	*
観察と評価	赤ちゃんの気質	
待合室観察スケール	母親-赤ちゃん相互関係の観察	Carey
医師の評価スケール		*, Ainworth
食事観察		
シップリー・ハートフォード語彙テスト		
母親情報		
	知能	Shiply & Hartford
6か月時		
食事と遊びの観察	一般情報	*
医師評価スケール		
待合室観察スケール		

ケイリー乳児気質質問用紙	母子相互関係の観察	Ainworth、*
	母子観察	*
9か月時	母子相互関係の観察	*
ベイリー乳児発達スケール	乳児の気質	Carey
母親子ども能力期待度調査		
アセスメント中の母子観察	乳児の精神・運動発達	Bayley
	ベイリーの発達スケール結果に対	*
12か月時	する母親の期待	
見知らぬ状況調査	母子相互関係	*
12か月面接		
習慣形成		
状況調査	愛着形成の程度	Ainsworth & Wittig
禁止の方法	一般情報	*
発達検査	子どもの注意力の発達	*
	母親への環境ストレスの量	Cochrane & Robertson、*
最初の1年間を通して	母親のしつけのやり方	*
チャイルドケア・スケール	認知発達	Uzgiris & Hunt
18か月時		
見知らぬ状況調査	チャイルドケアの質	*
禁止		
18か月面接		
状況調査	愛着形成の程度	Ainsworth & Wittig
	母親のしつけのやり方	*
24か月時	一般情報	*
問題解決	人生のストレス	Cochrance & Robertson
		*
認識検査		
ベイリー乳児発達スケール	有能性、遊びの質、問題解決の質、	Matas,Arend & Sroufe
2歳児行動	母親の補助と援助	
	母親の期待	*
発達期待検査	精神・運動・行動発達	Bayley
	ベイリー乳児発達スケールの結果	*
子育て知識	に対する母親の期待	
情報入手	子どもの標準的発達について母親	*

24か月面接	の知識	
	子育てについての知識	*
チャイルドケア・スケール	母親の情報入手方法	*
	母親の子どもと子育てについての知識	*
	チャイルドケアの質	*
30 か月時		
状況調査	人生のストレス	Cochrance & Robertson *
アルコール中毒スケール	アルコール中毒傾向	MacAndrew
感情、活動、社会性、衝動的気質調査	子どもの気質	Buss & Plomin
情報源質問用紙	子育てについての知識源	*
カドウェル HOME 調査	社会的、感情的、認知的刺激	Cardwell, Heider & Kaplan
30 か月面接	一般的情報、生活環境	*
42か月時		
状況調査	人生のストレス	Cochrance & Robertson *
バリアボックス検査	子どもの欲求不満状況への適応	Harrington, Block & Block
教える仕事	子どもの問題解決	*
就学前言語スケール	言語発達	Zimmerman, Steiner & Pond
42 か月面接	社会福祉局、チャイルドケアとの関与	*
48か月時		
状況調査	人生のストレス	Cochrance & Robertson *
	母親の子どもに影響する気分状態	*
気分プロフィール		MacNair, Lorr & Droppelman
発達プロフィール	子どもの自律・社会的・言語スキル	
	母親の肯定的・否定的感情状態	Alpern & Boll
	子どもの問題行動	
うつ状態スケール	知能	Radloff

症状チェックリスト		*
ウェクスラー成人知能スケール	不安	Wechsler
IPAT 不安スケール質問用紙	一般情報、人間関係の状況等	
48 か月インタビュー		Cattell & Scheier

*

54か月時

プレスクール対人問題解決検査	行動適応	Shure & Spivack
二重点テスト		
好奇心箱テスト	自我の柔軟性 遊びへの集中度、遊びの質	Block & Block Banta's Curiosity Box
贈り物遅配テスト		改訂版
競争テスト	子どもの自我コントロール	Block & Block
モザイクテスト	子どもの自我の柔軟性	Block & Block
54か月アセスメントの総合評価	子どもの遊び好きの程度と想像力 自我統制、依存性、興味、否定的・肯定的影響	Block & Block *
人間関係状況		
54か月面接	母親の男性関係、子どもの第一養育者	*
状況調査		
母親質問用紙	一般情報、生活環境 人生のストレス	* Cochrance & Robertson
<u>プレスクール</u> (3,4歳の保育)	感受性と共感	*
プレスクール行動質問用紙Ⅰ、Ⅱ		*
	情緒不安兆候	
プレスクール評価スケール		Behar&Stringfield, *
		*
カリフォルニア子ども0ソート	保育、自信、自我統制、依存性、社会的スキル、影響性、遵守 自己信頼と自我統制、自立、自尊心、社会性	Block & Block
保育情報		*

キンダーガーデン時(5歳児)

	出席状況	
教師受け入れ手続き	友人の受け入れと社会的有能性	
デボラ小学生行動評価スケール	教室適応	
子ども行動チェックリスト(教師用)		*
キンダーガーデン社会行動スケール	問題行動	Spivak & Swift
教師面接		Achnbach & Edelbrock
	機関、自己統制、肯定的影響、否定的傾向、依存性	*
学校生活情報		
第一次教室環境	子どもの一般的適応、進歩と行動変化	*
	出席状況、特殊プログラム、など	*
	教室生態	*

64か月時

子ども行動チェックリスト(親用)	子どもの問題行動や社会的有能性の親による評価	Achenbach
64 か月面接	家族と仕事の状況、現在の状況や子ども、社会性活などについての感情	*
ウェクスラー・プレススクール一次知能テスト	知能	Wechsler
チャイルドケア評価スケール	チャイルドケアの質	*
ジェンダー不変性テスト(ジェンダー同一性)	ジェンダー同一性と確実性、さまざまな場面でのジェンダー不変性	Slaby & Frey
物語りテスト	一般的表出言語	*
人物描画テスト	一般的認知	*
社会的ネットワーク調査	社会的支援	*、 Bell 他
状況調査	人生のストレス	Cochrance & Robertson
		*
16PF	母親の人格	Cattell

1年生時(学校)

教師報告	仲間の受容と社会的有能性	*
デボラ小学生行動スケール	教室での適応	Spivak & Swift
子ども行動チェックリスト(教師用)	問題行動	Achenbach&Edelbrock
教師面接		*
	子どもの全般的な適応、進歩、行動	
有能性と受容の教師評価	変化	
	観察される有能性と受容	Harter & Pike

1年生時(家庭)

ピーボディ個人達成テスト		
年少児能力認知スケール	学業成績	Dunn & Markwardt
母親面接	自尊感情	Hater & Pike
ポータス迷路検査	母親の肯定的・否定的感情状態	*
状況調査	遊びと衝動のコントロール	Porteus
	人生のストレス	Cochrance & Robertson
カドウェル HOME 調査	環境的刺激	*
子ども行動チェックリスト(両親用)	両親による子どもの問題行動と社会的有能性の評価	Cardwell & Bradley
人物描画テスト		Achenbach
チャイルドケア・スケール		
人間関係状況	一般認知スキル	*
	チャイルドケアの質	*
<u>2年生当時(学校)</u>	母親の男性関係、主として子どもの	*

子ども行動チェックリスト(教師用)	世話をする人	
デボラ小学生行動スケール		
教師受け入れ手続き	問題行動	Achenbach&Edelbrock
教師面接		Spivak & Swift
	教室での適応	*
学籍情報シート	仲間の受容と社会的有能性	*
	子どもの全般的な適応、進歩、行動	*

2年生当時(家庭)

母親インタビュー	出席、特殊プログラム	*
人間関係状況		
	母親の感情、期待、学校観、母親の	*
状況調査	生活環境	

子どものうつ評価(親用)	母親の男性関係、主として子どもの世話をする人	Cochrance & Robertson、* Poznanski 他
バックうつ調査	人生のストレス	Beck 他
	学業成績	
	うつの激しさ	
	行動方針と大人のうつの程度	

3年生当時(学校)

教師面接	環境的刺激	Dunn & Markwardt
子ども行動チェックリスト(教師)	自尊心	Cardwell & Bradley
ピーボディ個人達成テスト	学業成績	Dunn & Markwardt
カドウェル HOME 調査	環境的刺激	Cardwell & Bradley
有能性・受容度絵テスト	自尊心	Harter & Pike
人物描画テスト	一般的認知スキル	*
家庭訪問評価	遵守、検査者とのラポール、仕事の方向付け、がんばり、否定的・肯定的影響	*

3年生当時(家庭)

母親面接	母親の感情、期待、学校観、母親の生活環境	* *
人間関係状況	母親の男性関係、主として子どもの世話をする人	* Achenbach&Edlbrock
状況調査	人生のストレス	Cochrane & Robertson、*
子どものうつ評価(親用)	うつの激しさ	Poznanski 他
バックうつ調査	行動方針と大人のうつの程度	Beck 他
ピーボディ個人達成テスト	一般的認知スキル	Spivak & Swift
カドウェル HOME 調査	遵守、検査者とのラポール、仕事の方向付け、がんばり、否定的・肯定的影響	* *
有能性・受容度絵テスト		*
人物描画テスト		
家庭訪問評価		*
用)	子どもの一般的適応、進歩、行動変化	*
デボラ小学生行動スケール	問題行動	Achenbach&Edlbrock
教師受け入れ手続き	教室での適応	Spivak & Swift
教師面接	仲間の受容と社会的有用性	*

学籍情報シート	子どもの全般的な適応、進歩、行動変化 出席、特殊プログラム	*
<u>6年生当時(学校)</u>		
教師面接	子どもの一般的適応、進歩、行動変化	*
子ども行動チェックリスト(教師用)	問題行動	*
デボラ小学生行動スケール	教室での適応	
教師受け入れ手続き	仲間の受容と社会的有用性	Cochrance & Robertson,
教師面接	子どもの全般的な適応、進歩、行動変化 出席、特殊プログラム	* Dunn & Markwardt
<u>6年生当時(家庭)</u>		
母親面接		*
人間関係状況	母親の感情、期待、学校観、母親の生活環境	*
状況調査	母親の男性関係、主として子どもの世話をする人 人生のストレス	Gilligann 応用版、* MacAdams, * Seligman
ピーボディ個人達成テスト		*
家庭訪問評価	学業成績	
文章完成テスト	遵守、検査者とのラポール、仕事の方向付け、がんばり、否定的・肯定的	Block 他
道徳テスト	影響	
テーマ関連テスト	家族・友人との葛藤、自己知覚	
説明スタイル質問用紙	道徳性の発達程度、面倒見	
友情インタビュー	親密動機、葛藤と攻撃的心象 人のせいにする態度	
<u>7年生当時(家族)</u>		
家族観察	友達関係とその理解	
禁煙キャンペーン		
集まり	家族の親密さ、影響を与える調子、	*
できごと予想	葛藤解決、自律への支え	
Qソート	母親の感情、期待、学校観、母親の生活環境	Cochrance & Robertson
休暇計画	人生のストレス	* Radloff

16歳当時

母親

母親面接

状況調査

うつ状態スケール

子ども行動チェックリスト
(親用)

解離経験スケール

家族自己報告調査

青年

思春期面接

親密関係調査

思春期健康調査

青年自己レポート

自己知覚プロフィール

ウッドコック・ジョンソン教育心
理バッテリー

自己申告家族調査

思春期事象スケール

17歳半当時

母親

母親面接

状況調査

うつ状態スケール

親の影響/子どもの自律性

母親の肯定的・否定的感情状態

子どもの問題行動と社会的有能性
に対する親の評価

解離経験の頻度

家族の健康、葛藤、コミュニケーション、
団結、直接的リーダーシップ、
表現度

同一性、友人関係、学校、デート
友情とデート

思春期保健行動

学業、社会的有能性、問題行動

学問的有能性、運動能力、身体的外
見、行動統制、全体的自己価値、職
業的有能性、親密な友情関係、恋愛

的アピール

学業達成

家族の健康、葛藤、家族のコミュニ
ケーション、家族の団結、直接的リ
ーダーシップ、表現度

ストレスの高い人生のできごと

母親の感情、期待、学校観、母親の
生活環境
人生のストレス

母親の肯定的・否定的感情状態

Achenbach

Carlson & Putnam

Beavers 他

Grotevant 他

Grotevant 他

Renick

Achenbach

Harter

Woodcock & Johnson

Beavers 他

Compas, *

*

Cochrance & Robertson

*

Radloff

*

Puing-Antich &

Chambers

	質問用紙	親が子どもの人生に与えた影響の 程度の評価	
子ども			
思春期面接			*
学童期用精神障害調査		学校、仕事、生活状況、デート 過去と現在の精神的障害と症状	Resnick, * *
19歳時			
青年			Carlson & Putnam
思春期文章完成テスト			Main & Hesse
思春期健康調査		内的な自己と他者のモデル	Compas, *
思春期面接		保健的行動	*
		生活状況、活動、教育、仕事、宗教、 政治	*
解離経験スケール		政治	
成人の愛着について面接		解離経験の頻度	
思春期状況調査		内的モデル	
適応スケール		ストレスの高い人生のできごと	
人間関係インタビュー		全体的な機能の評価 人間関係	Crowell Fri & Bersheid 他
恋愛関係(第1フェーズ)			
青年とパートナー			
現状調査		パートナーへの愛着	
関係認識バッテリー			Strauss
安心感		恋愛関係の認識	Gottman 他
関係の理想化			Markman & Cox
親密さと感情の度合い(主観)			Bengston &
満足度			Grotevant, *
愛情			
関与			*
関係の発展			*, Mortimer
葛藤スケール			*
関係の問題		関係における葛藤	
カップル観察		関係の障害	*, Horowitz
理想的カップルQソート		カップルの相互関係 カップルの相互関係	Resnick, *
23歳時			
学校/職場経験面接			Achenbach
仕事経験質問用紙		生活状況、教育、仕事	Derogites

関係性面接	仕事目標、満足度、ストレス、関係性 *
精神衛生サービス利用状況	社会的支援、家族関係、恋愛関係、 交際の歴史、友人関係
成人保健調査	治療歴 全般的健康、アルコールと薬物使 用、性的行動と犯罪
若年成年自己レポート(18~30 歳用)	社会的有能性、問題行動、症状チェ ックリスト
症状チェックリスト90	精神病理チェックリスト
人生設計	ストレスの高い人生のできごと

*恋愛関係(第IIフェーズ)は割愛

D.考察

ハイスコープ・ペリー・プレスクール研究、カロライナ・アベセダリアン・プロジェクト、ヘッドスタート家族・子ども生活調査により、子ども自身に貧困、障害などのリスクがある場合、保育プログラムの効果は大であることが確認された。NEILSプロジェクトは、子どもが早期介入を必要とするリスクが生じる背景にはリスクの発生の条件となるような一定の傾向があることを示唆している。保育コストと質・成果研究、EPPEプロジェクトは、保育プログラムの質は子どもの学業成績に影響を与えることを示した。これらの研究から与えられる示唆は、発達リスクを抱えた子どもに保育プログラムを提供することの重要性と、保育プログラムの質の重要性である。

NICHDチャイルドケア研究ネットワークの特徴は、子どもの出生時にサンプル抽出がされているため、他のプロジェクトの対象が、保育プログラムを受けているかあるいは早期介入を受けているグループか

らの抽出であるための限界を受けていないことにある。したがってその結論からは一般的な含意を導き出すことができる。このプロジェクトは家庭環境要因の重要性と人生早期のチャイルドケアの重要性を改めて示した。

ミネソタ適応研究は、子どものパーソナリティは環境との相互関係により発達するという理論的枠組みのもとに多くのアセスメントを駆使して、個体要因と環境要因の複雑な相互関係を示した。この研究は家族支援、ことに母子関係改善のための援助の具体的プロセスに科学的根拠を与えた。問題が発生するのは乳児期のごく早期であり、より早期により強力な介入を行う必要がある。また、周産期から成人に至るまでの発達の各種アセスメントの実行は本研究にも貴重な示唆を与えてくれる。

乳幼児追跡研究、カナダ子ども追跡研究は進行中のプロジェクトであり、現在も膨大なデータが蓄積中である。乳幼児期の経験が認知的・情緒的・社会的・身体的観点から青少年期にどのような影響をもたらす

かについて多くを明らかにするものと期待できる。

E. 結論

欧米における影響研究からの成果は、乳幼児早期における保育サービスの提供の仕方と家族支援の重要性の再認識である。まず保育サービスについては質の向上、その最重要点は人的資源を豊かにすること、すなわちできるだけおとな一人当たりの担当児の数を少なくすること、そして保育従事者の資質の向上である。質のよい保育サービスは子どもに対する母親の応答性を高め、家庭内での養育環境も向上させることができるという知見が得られた。父親や母親の労働条件の向上などを含め、子どもの養育環境の改善にむけて、より広い範囲での家族支援の方策が実行されなくてはならない。

また子どもの心身の健やかな発達には社会・集団生活面での適応が不可欠となる。そのためには学校生活に如何に適応できる

かが鍵となる。発達段階にふさわしい認知発達および社会性が望まれ、保育サービスの教育的側面についてカリキュラムや指導方法の充実が図られなくてはならない。そのためこれまでの発達研究の成果を踏まえた上での保育内容の改善がなされなくてはならない。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書に記載)

G. 研究発表

1. 論文発表

「保育が子どもの発達に与える影響 — NICHD 早期保育リサーチネットワークの研究にみる—」、『神戸女子大学社会福祉学研究』第9号、2006年3月。

2. 学会発表

「保育の効果に関する研究の状況—アメリカでの経年的研究に注目して—」2006年5月20/21日・日本保育学会第59回大会発表。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし。

文献

- 1 Consortium for Longitudinal Studies (1983) *As the Twig is Bent: Lasting Effects of Preschool*, Lawrence Associates.
- 2 Scarr, S., Phillips, D. & McCartney, K. (1989) Working Mothers and Their Families, *American Psychologist*, 44(11):1402-1409.
- 3 Kamerman, S.B. & Kahn, J.A. (1995) *Starting Right*, Oxford University Press.
- 4 Scarr, S. (1998) American Child Care Today, *American Psychologist*, 53(2):95-108.
- 5 Shonkoff, N. F. & Phillips, D.H. (ed.) (2000) *From Neurons to Neighborhoods*, National Academy Press.
- 6 Vandell, D.L. & Wolf, B. (2000) Child Care Quality: Does it Matter and Does It Need to be Improved?, Department of Health & Human Services.

-
- ⁷ Helburn, S.W. & Bergmann, B.R. (2002) *America's Childcare Problem*, Palgrave.
- ⁸ Administration for Children and Families, U.S. Department of Health and Human Services (2003) *Strengthening Head Start: What the Evidence Shows*.
- ⁹ Berrueta-Clement, J.R., Schweinhart, L.J., Barnett, W.S., Espstein, A.S. & Weikart, D.P. (1984) *Changed Lives: the Effects of the Perry Pre-School Programme on Youths through age 19*, The High/Scope Press.
- ¹⁰ Schweinhart, L.J., Barnett, H.V., & Weikart, D.P. (1993) *Significant Benefits: The High/Scope Perry Preschool Study Through Age 27, Monograph of the High/Scope Educational Research Foundation*, No 19, High Scope Press.
- ¹¹ Schweinhart, L.J. (2003) *Benefits, Costs, and Explanation of the High/Scope Perry Preschool Program*, presented at the Meeting of the Society for Research in Child Development.
- ¹² Schweinhart, L.J. et al. (2005) *Lifetime effect: The High/Scope Perry Preschool Study Through Age 40*, High Scope Press.
- ¹³ Fuerst, J.S. & Fuerst, D. (1993) *Chicago Experience with an Early Childhood Programme: The Special Case of the Child Parent Center Program*, *Educational Research*, 35(3): 237-253.
- ¹⁴ Reynolds, A.J. (1995) *One Year of Preschool Intervention or Two?*, *Early Childhood Research Quarterly*, 10(1):1-31.
- ¹⁵ Reynolds, A.J. (1999) *Educational Success in High-Risk Settings: Contributions of the Chicago Longitudinal Study*, *Journal of School Psychology*, 37(4):345-354.
- ¹⁶ Temple, J.A. & Reynolds, A.J. (1999) *School Mobility and Achievement: Longitudinal Findings from an Urban Cohort*, *Journal of School Psychology*, 37(4):355-377.
- ¹⁷ Miedel, W.T. & Reynolds, A.J. (1999) *Parent Involvement in Early Intervention for Disadvantaged Children: Does It Matter?*, *Journal of School Psychology*, 37(4):379-402.
- ¹⁸ Gill, S. & Reynolds, A.J. (1999) *Educational Expectations and School Achievement of Urban African American Children*, *Journal of School Psychology*, 37(4):403-424.
- ¹⁹ Reynolds, A.J., Temple, J.A., Robertson, D.L. & Mann, E.A. (2001) *Age 21 Cost-Benefit Analysis of the Title I Chicago Child-Parent Center Program*, presented at the annual meeting of the Society for Prevention Research in Washington, DC.
- ²⁰ Reynolds, A.J. & Robertson, D.L. (2003) *School-Based Early Intervention and Later Child Maltreatment in the Chicago Longitudinal Study*, *Child Development*, 74(1):3-26.
- ²¹ Hebbeler, K. & Wagner, M. (1998) *The National Early Intervention Longitudinal Study*

Design Overview, SRI International..

- ^{2 2} Hebbeler,K., Wagner,M A., Spiker,D., Scarborough,A., Simeonsson,R. & Collier,M. (2001) A First Look at the Characteristics of Children and Families Entering Early Intervention Services, SRI International.
- ^{2 3} Bailey,D. , Scarborough,A. & Hebbeler,K.(2003) Families' First Experiences with Early Intervention, SRI International.
- ^{2 4} Hebbeler,K., Spiker,D., Mallik,S., Scarborough,A. & Simeonsson,R.(2004) Demographic Characteristics of Children and Families Entering Early Intervention, SRI International.
- ^{2 5} Bailey,D. , Scarborough,A., Hebbeler,K. & Mallik,S.(2004) Family Outcomes at the End of Early Intervention, SRI International.
- ^{2 6} Horacek,H.J., Ramey,C., Cambell, F., Hoffmann,K.. & Fletcher,R. (1987) Predicting School Failure and Assessing Early Intervention with High-Risk Children, *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 26(5):758-763.
- ^{2 7} Ramey,C. & Campbell, F. (1987) The Carolina Abecedarian Project: An Educational Experiment Concerning Human Malleability, in J.J.Gallagher and C.T.Ramey(ed.) *The Malleability of Children*, Paul H. Books Publishing Co.
- ^{2 8} Campbell, F.A. & Ramey,C.T. (1993) Mid-Adolescent Outcomes for High Risk Students: An Examination of the Continuing Effects of Early Intervention, New Orleans, LA: Biennial Bonferebde if tge Society for Research in Child Development.
- ^{2 9} Burchnal, M.R., Campbell, F.A., Bryant, D.M., Warsik, B.H. & Ramey,C.T.(1997) Early Intervention and Mediating Process in Cognitive Performance of Children of Low-Income African American Families, *Child Development*, 68(5): 935-954.
- ^{3 0} Frank Porter Graham Child Development Center (1999) *Early Learning, Later Success: The Abecedarian Study*.
- ^{3 1} Cost, Quality, and Outcomes Study Team(1995) *Cost, Quality, and Child Outcomes in Child Care Centers*, Denver, Colo: Economic Department, University of Colorado at Denver.
- ^{3 2} Frank Porter Graham Child Development Center (1999), the Children of the Cost, Quality, and Outcomes Study Go to School, www.fpg.unc.edu/~NCEDL/PAGES/cqes.htm
- ^{3 3} NICHD Early Child Care Research Network (1996) Characteristics of Infant Child Care: Factors Contributing to Positive Caregiving, *Early Childhood Research Quarterly*, 11.
- ^{3 4} NICHD Early Child Care Research Network (1997) Familial Factors Associated with the Characteristics of Nonmaternal Care for Infants, *Journal of Marriage and the*

Family, 59.

- ³⁵ NICHD Early Child Care Research Network (1997) The Effects of Infant Child Care on Infant-Mother Attachment Security: Results of the NICHD Study of Early Child Care, *Child Development*, 68.
- ³⁶ NICHD Early Child Care Research Network (1998) Early Child Care and Self-Control, Compliance and Problem Behavior at Twenty-Four and Thirty-Six Months, *Child Development*, 69.
- ³⁷ NICHD Early Child Care Research Network (1998) Relations between Family Predictors and Child Outcomes: Are They Weaker for Children in Child Care?, *Developmental Psychology*, 34.
- ³⁸ NICHD Early Child Care Research Network (1999) Child Outcomes When Child Care Center Classes Meet Recommended Standards for Quality, *American Journal of Public Health*, 89.
- ³⁹ NICHD Early Child Care Research Network (1999) Chronicity of Maternal Depressive Symptoms, Maternal Sensitivity, and Child Functioning at 36 Months, *Developmental Psychology*, 35.
- ⁴⁰ NICHD Early Child Care Research Network (1999) Child Care and Mother-Child Interaction in the First Three Years of Life, *Developmental Psychology*, 35(6) 1399-1413.
- ⁴¹ NICHD Early Child Care Research Network (2000) Factors associated with Fathers' Caregiving Activities and Sensitivity with Young Children, *Journal of Family Psychology*, 14.
- ⁴² NICHD Early Child Care Research Network (2000) Characteristic and Quality of Child Care for Toddlers and Preschoolers, *Applied Developmental Science*, 4.
- ⁴³ NICHD Early Child Care Research Network (2000) The Relation of Child Care to Cognitive and Language Development, *Child Development*, 71.
- ⁴⁴ NICHD Early Child Care Research Network, Public Information & Communication Branch, Bethesda, MD, US (2001) Child-care and Family Predictors of Preschool Attachment and Stability from Infancy, *Developmental Psychology*, 37(6).
- ⁴⁵ NICHD Early Child Care Research Network (2003) Does Quality of Child Care Affect Child Outcomes at Age 4 1/2?, *Developmental Psychology*, 39(3), 451-469.
- ⁴⁶ NICHD Early Child Care Research Network (2003) Do Children's Attention Process Mediate the Link between Family Predictors and School Readiness? *Developmental Psychology*, 39(3), 581-593.

-
- ⁴⁷ Allhusen, V et al. (2004) Does Class Size in First Grade Relate to Children's Academic and Social Performance or Observed Classroom Processes? *Developmental Psychology*, 40(5), 651-664.
- ⁴⁸ NICHD Early Child Care Research Network (2004) Father's and Mother's Parenting Behavior and Beliefs as Predictors of Children's Social Adjustment in the Transitions to School, *Journal of Family Psychology*, 18(4), 628-638.
- ⁴⁹ NICHD Early Child Care Research Network (2005) Pathways to Reading: The Role of Oral Language in the Transition to Reading, *Developmental Psychology*, 41(2), 428-442.
- ⁵⁰ NICHD Early Child Care Research Network (2005) Predicting Individual Differences in Attention, Memory, and Planning in First Graders from Experiences at Home, Child Care and School, *Developmental Psychology*, 41(1), 99-114.
- ⁵¹ NICHD Early Child Care Research Network (2005) *Child Care and Child Development: Results from the NICHD Study of Early Child Care and Youth Development*, Guilford Press.
- ⁵² Tarullo, L.B. & Doan, H. (1998) *Head Start Program Performance Measures*, Administration on Children, Youth and Families, U.S. Department of Health and Human Services.
- ⁵³ Tarullo, L.B. & Doan, H. (2001) *Head Start FACES: Longitudinal Findings of Program Performance*, Administration on Children, Youth and Families, U.S. Department of Health and Human Services.
- ⁵⁴ Tarullo, L.B. (2003) *Head Start FACES 2000: A Whole-Child Perspective on Program Performance*, Administration on Children, Youth and Families, U.S. Department of Health and Human Services.
- ⁵⁵ McKey, R.H. (2003) The Head Start Family and Child Experiences Survey: What are We Learning about Program Quality and Child Development?, *CHILDREN AND FAMILIES* Winter 2003.
- ⁵⁶ Park, J. (2005) *Early Childhood Longitudinal Study-Birth Cohort: Project Summary*, U.S. Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ⁵⁷ Hausken, E.G. (2005) *Early Childhood Longitudinal Study-Kindergarten Class of 1998-99: Project Summary*, U.S. Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ⁵⁸ Love, J.M., Meckstroth, A. & Sprachman, A. (1997) Working Paper: Measuring the

-
- Quality of Program Environments in Head Start and Other Early Childhood Program, U.S.Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ^{5 9} Green, J., Hoogstra, L.A., Ingels, S.J., Greene, H.N. & Mamell, P.K. (1997) Working Paper: Formulating A Design for the ECLS: A Review of Longitudinal Studies, U.S.Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ^{6 0} Rathbun, A. & West, J. (2004) From Kindergarten Through Third Grade: Children's Beginning School Experiences, U.S.Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ^{6 1} Walston, J. (2004) Full-day and Half-day Kindergarten in the United States: Findings from the Early Childhood Longitudinal Study, Kindergarten Class of 1998-99, U.S.Department of Education Institute of Education Sciences National Center for Education Statistics.
- ^{6 2} Sroufe, L.K., Egeland, B., Carlson, E.A., & Collins, W.A. (2005) *The Development of the Person*, Guilford.
- ^{6 3} Sylva, K., Sammons, P., Melhuish, E., Siraj-Blatchford, I. & Taggart, B. (1999) *An Introduction to the Effective Provision of Pre-School Education Project*, Institute of Education, University of London.
- ^{6 4} Sylva, K., Sammons, P., Melhuish, E., Siraj-Blatchford, I. & Taggart, B. (1999) Characteristic of the Centres in the EPPE Samples: Observational Profiles, Institute of Education, University of London.
- ^{6 5} Sylva, K., Sammons, P., Melhuish, E., Siraj-Blatchford, I. & Taggart, B. (1999) Characteristic of Pre-School Environment, Institute of Education, University of London.
- ^{6 6} Ou, S & Reynolds (2004) Preschool Education and School Completion, Encyclopedia on Early Childhood Development, Centre for Excellence for Early Childhood Development.

2年次

2年次の研究では、イギリスにおける就学前の乳幼児に対する処遇が与える影響についての3つの評価調査研究を紹介した。そのうえで調査研究自体が子どもの生育環境に与える影響を、生態学的環境システム論の視点から検討した。

評価研究そのものが有効であると評価されるには、そのプロセスにおいて子ども自身に望ましい変化が現れること、子どもの変化を誘発する保護者の変化があること（マイクロ・システム）、子ども（および保護者）に直接かかわる援助者の技能・資質の向上がもたらされることとそのような仕組みが生成すること（メゾ・システム）、評価結果が一般化されて社会に知的な財産として共有されること（エクソ・システム）、以上のような望ましい変化を保障する法制化などが実現すること（マクロ・システム）が求められる。

A 研究目的

今年度はイギリスにおける就学前の乳幼児に対する処遇についての影響の3つの評価調査研究事例として EEL*プロジェクト、EPPE*プロジェクト、および PEEP*プロジェクトの評価を行った BTSS*研究を示し、その背景とともに「評価」を意味あるものとして成立させる条件について検討することを目的とする。

* EEL=Effective Early Learning
(効果的な初期学習)

* EPPE=Effective Provision of Pre-School
Education (効果的な就学前教育の実施)

* PEEP=Peers Early Education Partnership
(友だち親子早期教育パートナーシップ)

* BTSS=Birth to School Study
(誕生から就学までの追跡研究)

<研究目的の設定の理由>

1年次の研究で、米国を始めとする数カ国におけるいくつかの大規模な経年的研究を紹介した。結論のひとつは、研究の方向性として、社会政策の一環としての低所得家庭への子どもを対象とした保育プログラムと家族支援プログラムの実施およびその根拠を求めての調査研究実施という傾向か

ら、一般家庭の子どもを対象とした保育プログラムのあり方を探るようになったことが認められた。大規模なパネル・コーホート・スタディ実施の理由もそこにある。

もうひとつの結論は、乳幼児早期における保育サービスの提供の仕方と、家族支援の重要性の再認識であった。

調査研究の対象に一般家庭の子どもも含める傾向が一方で見られるとはいえ、他方で政策的な優先順位が何らかの困難をもつ子ども、家庭を中心とした支援におかれる理由はその緊急性および財源充当の限界にある。

子どもの生育環境はその子どもの属する社会的文脈に依存する。このことは子育てにブレンフェンブレンナーの提唱する生態学的な環境システム論¹を適用することでも理解される^{2, 3}。これは、環境をマイクロ・メゾ・エクソ・マクロの4つのシステムとしてとらえたものである。

子どもに何らかの問題が発生したとき、それが経験される最小の単位は親子（保護者と子ども）であり、その直接的なかかわりの状況がマイクロ・システムであるとしよう。この、子と親のインターフェイスシス

テムを規定するものはマイクロ・システムの外側に存在するメゾ・システム、一例を挙げると保育所あるいは保育士という直接的な支援を行う存在、となる。

子どもの問題が解決されるには、このメゾ・システムがいかに有効に機能するかが鍵となるが、それは、法律やそれに基づく支援計画などのマクロな視点からの間接支援システムによって支えられている。

子どもに生じている何らかの問題が解決されるのは、上記のメゾ・マクロシステムが適切に構造化されており、親子関係というマイクロ・システムが良好に機能するようになり、子ども自身に望ましい変容が発生するという、複数のプロセスがうまくかみ合ったことであると理解される。求められるのは、マクロ・システムのレベルでは必要な法律や機構であり、マイクロ・システムのレベルでは親と子どもの双方に適切な援助が行われることである。またリソースフルなエクソ・システムの存在も大きな役割を果たすであろう。

そこで子どもに対する援助、親に対する援助、援助にあたるワーカーの資質、ワーカーの養成あるいは資質向上のための枠組み、法的枠組みなど、これらが総合的な効果をあげるにはどのような仕掛けが必要となるであろうか。また、その仕掛けの基底をなす理念、思想はどのようなものであろうか。

そこで、ここ10年あまりの間に子ども家庭福祉分野で大きな変化を見せたイギリスの3つの調査研究事例を研究の対象とした。

その理由は、まず短期間に大きな変化を見せたため、背景を含めその経緯の追跡が

比較的容易であることにある。イギリスで当該分野の変化の兆しは1990年前後に見られていたが、大きな変化が目に見えて現れてきたのが1997年の政権交代時以後のことである。そこからさらに10年近くが経過し、制度的にみてまだまだ展開の余地はあるものの、一応の安定に達している。補足ではあるが、イングランドの政策を他のウェールズ、スコットランド、北アイルランドも大枠で追随するので、イングランドを一国の代表とみなすことができる。

また、この3つの研究調査はともに就学前の幼児の処遇についての評価研究であるが、何をもって「効果」とみなすか、という「価値観」が3つとも同じというものではない。結局はこの「価値観」の設定につながるのであるが、先述のシステム理論の視点を用いれば、マクロの政策決定の根拠となる価値基準が、既存の価値観に依拠しているのか、協団体における民主的な営みそのものを重視し新たな価値観を創造しようとしているのかが相違している。

共通しているのは、子ども自身に対して作用する保育（ケアと教育）内容の重視である。保育とは、マイクロ・システムの中核に親子関係があるとするならば、さらに子ども自身に直接的に、親子という関係性を抜きにして作用するものである（無論、受け手としての子どもの資質がすでに家庭での親子関係によって影響を受けていることを否定するものではない）。その重要性を主張してもしすぎることはないだろう。

ふたつめの共通点は、プロジェクトの展開として、評価のプロセスが当該保育機関における保育の質の向上にかかわり、その後も「評価」が「向上」につながり、実践